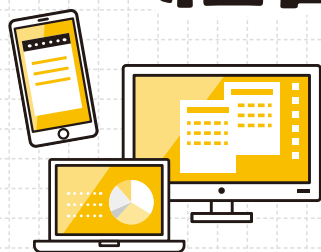


AI も使えるようになる

経営にデータを使うことの

ススメ



経営戦略

- × 実態と異なる施策を打ち出してしまう
- × 空振りの行動や成果が十分に得られない
- × 自社の強みがわからない
- × どういった事業を展開すればよいかわからない



データを利用

現在の状況を迅速に正しく把握できるため、**実態に沿った戦略立案が可能**



自社のデータを分析することで、**新事業を企画・創出**することができる



事例

- 製造や販売などの社内データと為替や市場データの社外データを組み合わせて経営判断
- 人材の資格情報・経歴情報を分析し、適材適所への配置

リスク管理

- × リスクや異常に気付きにくい
- × 異常があったときに何がおかしいのか不明



データを利用

データをモニタリングすることによって、**異常の検知が可能**



リスク顕在時にも**素早い状況把握が可能**



事例

- 動作データや同種製品の情報から故障を事前予測し、予防保守やリプレースの事前提案
- 実績から販売状況や作業進捗が下がった場合にいち早く対応

事業改善

- × 実態がわからないので何をすればよいかわからない
- × 担当者の勘で行動



データを利用

業務プロセスを効率化させることができる



顧客のデータを分析し、それにあわせてアクションを起こすことで、**顧客満足度を向上**させることができる



事例

- 天候データによる需要の変動に連動した価格・出荷調整
- 複数の業務で別々のツールを利用していたため、同じツールを一括導入することでコスト削減、作業の標準化

組織でデータを使うためには（準備・導入編）

準備編



経営層の理解

- データに基づく判断を心掛ける
- データは企業の重要資産だと認識する

データ活用人材の育成

- 各社員がデータを意識して活動できるよう、必要な人材育成プログラムやツールを揃える

ガバナンスルールの策定

- データの取り扱いに関する基本的なルール（安全策、アクセス権など）を策定

体制整備

- CDO（最高デジタル責任者）、あるいは相当職とチームを設置する

データの棚卸

- 社内にどのようなデータがあるのか調べる
- 事業にどのようなデータが求められているかを調べる
- 上記をカタログ化する

導入編



データの企画、設計

- 収集および活用目的を明確にする
- 「見つけられる、アクセスできる、相互運用できる、再利用できる」（FAIR規則）とサステナビリティを意識して企画する
- 10年先、100年先の活用を考えてデータを設計する
- 相互運用性を確保するため、できるだけ国際標準に準拠^{*}する

^{*}デジタル庁とIPAが推進する「政府相互運用性フレームワーク（GIF）」は国際標準等も踏まえているので、それを参照する

データの整備

- 必要なデータソースを探す（社内データのカタログ、オープンデータ、データ取引所）
- データを入手し、クレンジング、統合する
できればAPIを使って自動収集する（迅速化とミスをなくすため手作業をなくす）

データの利活用

- 目的以外にも、視点を変え、ツールなども使い、データを分析し、新たな可能性を追求する
- サービスの価値を明確にし、関係者をサービスに巻き込んでいく

取り組みに活用できる、
IPAで公開中の資料



データ活用事例集、データに関するFAQ、データに関する用語集
<https://www.ipa.go.jp/digital/data/data-space.html>

データ利活用ユースケース集
https://www.ipa.go.jp/digital/data/dt_data_guide03.html

データの共通理解推進ガイド
https://www.ipa.go.jp/digital/data/dt_data_guide02.html

データの相互運用性向上のためのガイド
https://www.ipa.go.jp/digital/data/dt_data_guide01.html